

1930年代の北陸三県（富山県・石川県・福井県）における生活綴方をめぐる状況調査

松本圭朗¹

要旨

生活綴方は1930年代に隆盛した日本固有の教育方法である。また、生活綴方は、①作品に地域の生活が反映されている点、②地域に根ざして独自に展開している点において、地域教育史の解明に欠くことのできない研究対象である。しかし、1930年代の北陸三県——富山県・石川県・福井県——における生活綴方の解明は遅々としている。まずは、1930年代の北陸三県において生活綴方に関心を寄せていたであろう教師の同定をおこなう必要がある。本調査報告では、生活綴方に関連する雑誌と関わった教師を整理した。その結果、理論的論考を寄稿した教師として、富山県の飯原丈頃、社浦与三郎、石川県の米田政策、福井県の岡島繫、らが存在していた。また、継続的に文集寄贈をした教師として、富山県の館川数夫、田中のぶ子、寺島久雄、石川県の柴木三郎、寺西正雄、福井県の刀禰勇治、らが存在していた。

キーワード：生活綴方 1930年代 北陸三県 富山県 石川県 福井県

第1節 はじめに

日本固有の教育方法として発展し、高く評価されてきたのが生活綴方である。生活綴方は1930年代に隆盛し、東北地方を中心とした北方性生活綴方、山陰地方を中心とした南方性生活綴方などとして展開した。地域に根差した生活綴方は、その史的展開と研究の中で理論化され、教育方法論史の議論の遡上に載せられてきた。また、①作品に地域の生活が反映されている点、②地域に根ざして独自に展開している点において、生活綴方は地域教育史の解明に欠くことのできない研究対象である。と同時に、これまで看過されてきた地域の生活綴方実践の解明は、教育方法論史上の重要課題である。

上記の研究課題にあって、本調査報告では1930年代の北陸三県——富山県・石川県・福井県——に焦点をあてる。当該地域の生活綴方は看過される傾向にある。その端的な例が、峰地光重が今井誉次郎とともにまとめた『作文教育』である。峰地は戦前期の生活綴方教育史を跡づけるなかで、「昭和初期における全国生活綴方人の分布状況」をまとめ、「北陸」の人物として、内山直治、池田和夫、高橋しま子、小平貞子、寒川道夫、野村精策の6人を挙げている⁽¹⁾。しかし、いずれも新潟県の教師である。また、生活綴方運動を牽引してきた日本作文の会の編纂による『学級文集の研究』における「戦前・中部編」⁽²⁾には、北陸三県の学級文集は収録されていない。つまり、1930年代の生活綴方教育史をめぐる論考や資料では、「北陸」や「中部」を対象としながらも、富山県・石川県・福井県に関する具体的な言及がない場合がある。

その一方で、1930年代の北陸三県の生活綴方教育への具体的な言及はみられないものの、それに関与した教師が示されているものはある。1つは、日本作文の会の編纂による『日本の子どもの詩』における富山県編⁽³⁾、石川県編⁽⁴⁾、福井県編⁽⁵⁾の3冊である。ここには、戦前・戦中期を中心に活躍した教師の名前が挙げられている。いま1つは、滑川道夫による『日本作文綴方教育史3(昭和篇1)』である。滑川は、雑誌『国語教育』、雑誌『綴方教育』、雑誌『綴方生活』、雑誌『教育・国語教育』、雑誌『実践国語教育』、雑誌『工程』、雑誌『綴方学校』に掲載されていた文集紹介欄を整理し、「昭和戦前期の児童文・詩集の状況」をまとめている⁽⁶⁾。『日本の子どもの詩』と『日本作文綴方教育史3(昭和篇1)』に記されている北陸三県の教師は、次のとおりである(表1-1)。

原稿受付 2023年12月14日、受理日 2024年2月15日。

1.近畿大学生物理工学部 教養・基礎教育部門 〒649-6493 和歌山県紀の川市西三谷 930

表 1-1 : 1930 年代の北陸三県において生活綴方に関与した教師一覧

	『日本の子どもの詩』	「昭和戦前期の児童文・詩集の状況」
富山県	荒瀬実、飯田誠一、今川重蔵、柏野奎吾、清原馨、桑原一治、社浦与三郎、高柳信一、館川教夫、田中のぶ子、寺島久雄、野村幸作、畑野由次、日俣重光、広瀬一義、宮本静一、守田久雄	安吉外司 (野尻校) : 『白い道』
		館川教夫 (大久保校) : 『つどひ』
		野村幸作 (浜黒崎校) : 『浜ごぼう』
		桑原一治 (奥田校) : 『双葉』
		田中のぶ子 (愛宕校) : 『あたご』
		寺島久雄 (山室校) : 『蘭秀』
石川県	和泉清、今井一二、岩田一久、大谷内政治、大野雅信、岡野正策、奥井正男、香川忠、木谷安正、木谷与作、北村秀夫、小竹俊二、佐竹義信、沢田荘五郎、階戸二郎、柴木三郎、新藤歳治、新村助喜、杉本吉郎、諏訪青山、高崎貞之、竹田ミカ、立野與市、橋場和吉、辻田米松、釣谷諏訪吉、寺西正雄、中島清作、中村正衛、中本恕堂、中本義雄、西川鉄之助、細川秀道、蓮井一幸、平木貞吉、平松参郎、前川長作、榎野甚一、松井治助、松本順一、南栄蔵、南出米作、宮前武旭、向井数衛、森屋克雄、山本作次、吉田政男、和田敏夫、渡辺虎一	畑野由次郎 (猪谷校) : 『濡岩』
		岩田一久 (押野校) : 『野むぎ』
		河陽礼芳 (輪島校) : 『もしは』
		階戸二郎 (森山校) : 『森山文集』・『文の林』
		寺西正雄 (川尻) : 『生活』・『雪』
		室木長作 (富来校) : 『すだれ』
		香川忠 (森山校) : 『つぼみ』
		北村季夫 (湊校) : 『まつかぎ』
		柴木三郎 (波佐谷校) : 『友の声』
		蓮井一幸 (波佐谷校) : 『友の声』
		吉田政男 (芳齋校) : 『芳齋』
福井県	天谷巧、板倉勇、大霜則行、岡島繁、片岡三七雄、勝木隆、木原肇島、田静雄、新宅新一、杉本直、瀬戸川邦男田中幸、出口善太郎、日禰勇治、永井善太郎 (麟太郎)、中村貫一、西村賢志、藤沢典明、松尾俊一、松村伊佐武、山口亮、山本平太郎	朝日蔵松 (鯖江女師附小) : 『明カルイ教室』

これは北陸三県における生活綴方の一端を示すものであるが、しかし、教師の名前が示されているに留まる。また、①対象時期が限定されていること、②北陸三県で生活綴方を展開した教師たちの論考が不明であること、の2点において、北陸三県の生活綴方の実相を解明するための資料としては不十分である。

このように、1930年代における北陸三県の生活綴方の検討に着手できない状況がある。まずは、生活綴方に関心を寄せていたであろう教師の同定が必要となる。この作業を経ることによって、特定の教師を生活綴方に係る議論の遡上に載せることができる。したがって、本調査報告では、1930年代の北陸三県において生活綴方に関心を寄せていたであろう教師の同定を目的とする。この目的達成のために、復刻版が刊行されている生活綴方の関連雑誌を対象とし、そこに現れる北陸三県の教師を整理する。本調査報告で対象とするのは、雑誌『綴方生活』、雑誌『教育・国語教育』、雑誌『実践国語教育』、雑誌『工程・綴方学校』の4誌である(以下、4誌を対象雑誌と総称する)。対象雑誌の書誌情報は次のとおりである(表1-2)。

表 1-2 : 復刻版の書誌情報

雑誌名	発行期間	主宰等	復刻版
『綴方生活』	1929年10月 ～1937年12月	小砂丘忠義	綴方生活復刻委員会編 1980年 けやき書房
『教育・国語教育』	1931年4月 ～1940年3月	千葉春雄	教育・国語教育復刻刊行委員会 1987・1988年 大空社
『実践国語教育』	1934年4月 ～1942年3月	西原慶一	実践国語教育復刻刊行委員会 1981 - 1982年 教育出版センター
『工程・綴方学校』	1935年4月 ～1940年3月	百田宗治	工程・綴方学校復刻刊行委員会 1980 - 1982年 教育史料出版会

対象雑誌と生活綴方との関連については、『民間教育史辞典』にまとめられている。まず、『綴方生活』は、「生活綴方の指導体系確立過程を担った各地の綴方教師グループ」の論考がみられ、とくに1935年以降から、その傾向が顕著になるという⁽⁷⁾。また、『教育・国語教育』は、「地方在住の無名の若手教師の発掘に努力」した雑誌とされている⁽⁸⁾。同様に、『実践国語教育』も「若手の綴方教師らによって生活綴方

運動のわくを拡大する機会」にもなっている⁽⁹⁾。『工程』は、「全国的な若い実践者の実際的なそして実験的な研究発表の機関誌をつくること」をねらいの1つとしていた⁽¹⁰⁾。しかし、『工程』の改題誌『綴方学校』は、改題前に比して「綴方教師による論文や創作、児童の詩文が多く」なったという⁽¹¹⁾。

対象雑誌には、特集、同人や各地の教師による論考、国語科学習指導案の紹介・提案、文集紹介等の共通した内容がみられる。また、文集紹介欄は、「文集人名簿」（『綴方生活』）、「文集談義」（『教育・国語教育』）、「文集遠近」（『実践国語教育』）、「文集展望」（『工程』・『綴方学校』）等として、対象雑誌において継続的に掲載されている。いずれの文集紹介欄も寄贈文集の紹介が目的である。そのため、文集紹介欄に寄贈文集への短い総評が記される場合がある一方で、子どもの生活綴方作品の掲載は稀である。

こうした対象雑誌に対して、3つの調査をおこなう。第1に、北陸三県の教師の論考等の整理をおこなう。この作業により、理論的貢献をおこなった教師の存在を明らかにする。第2に、文集紹介欄において紹介された文集を寄贈した北陸三県の教師の整理をおこなう⁽¹²⁾。この作業により、文集を互いに送り合うことで地域に根づいてきた教師の存在を明らかにする。第3に、対象雑誌において紹介されている北陸三県の子どもの生活綴方作品を指導した教師の整理をおこなう。この作業により、対象雑誌の主宰・編者等に認められてきた教師の存在を明らかにする。なお、いずれの作業においても、明らかな誤字・誤記と判断できるものは、加筆・修正した。

これら3つの調査を各県別におこない、第2節では富山県、第3節では石川県、第4節では福井県の結果を示す。また、各節の第1項では教員の論考等、第2項では寄贈文集、第3項では誌面において公開された子どもの生活綴方作品および指導した教師の調査結果を示す。したがって、各節および各項において調査方法は示さず、調査結果のみ示す。そして、各節の第4項では各県の状況を小括し、第5節では1930年代の北陸三県における生活綴方の状況を概括する。

第2節 富山県における生活綴方をめぐる状況

(1) 教師の執筆状況

富山県の教師による論考等は次のとおりである（表2-1）。

表2-1：富山県の教師による執筆状況

著者	年	題目	巻号：頁
『綴方生活』			
黒田露歌（一）	1931	児童詩の出発	3（7）：50-57
	1931	綴方に於ける共同制作	3（8）：29
高岡静作（佐野校）	1935	獨り身	7（4）：71
	1935	生活指導への疑問	7（6）：37-38
	1936	離郷の朝	8（4）：64-65
	1937	にんじつ	9（2）：59-63
	『教育・国語教育』		
荒瀬実（富山女師附小）	1938	高一読方：故郷の花（3月の読方実践プラン）	8（3）：56-57
	1938	高一読方：真の知己（6月の読方教室）	8（6）：48-49
飯原丈頃（富山女師附小）	1934	朗読の理法とその指導	4（1）：32-39
	1934	無題（最近の御意見拝聴）	4（7）：64-65
	1934	柚子の実	4（12）：119
	1935	敬語の心と姿とその発展 ：新定小学国語読本に現はれたる敬語を解剖す	5（1）：83-90
	1935	尋四「世界」の指導案	5（4）：96-100
石坂（田中校）	1931	無題（読者便）	1（5）：119
石崎直義（福光校）	1939	詩歌教材取扱試案	9（8）：63
	1939	地藏祭（郷愁詩抄）	9（8）：65
	1939	竹藪	9（8）：72
	1940	自学自習の目的に（尋六）	10（3）：148-150
	1940	大雪覚書：富山だより	10（3）：158-159

清原馨 (富山師範附小)	1937	尋五読方：南洋だより (11月の読方実践プラン)	7 (11) : 41-43
	1937	尋五読方：久田船長 (12月の読方実践プラン)	7 (12) : 103-105
社浦与三郎 (富山師範附小)	1932	無題 (問題一の解答)	2 (4) : 30-31
	1932	無題 (問題二の解答)	2 (4) : 76
	1937	高二読方 (10月の読方実践プラン)	7 (10) : 56-57
	1937	高二読方：伊藤博文 (11月の読方実践プラン)	7 (11) : 46-47
	1938	尋三読方：動物園 (5月の読方教室)	8 (5) : 46-47
	1938	尋一読方：シントネズミ (読方教室 教材の新研究)	8 (9) : 112-113
	1939	教科組織体系に於ける国語の位置	9 (3) : 41-44
	1939	九月読方教材の観方	9 (9) : 94-102
高島秀一 (鷹栖校)	1938	報徳の精神とその指導	8 (6) : 32-35
田中のぶ子 (愛宕校)	1938	林間学校	8 (8) : 73-74
	1938	尋四綴方：休暇日記文集の作成 (綴方教室 9月のプラン)	8 (9) : 68-69
中永昭草 (一)	1931	無題 (短歌六人集)	1 (9) : 38
廣瀬喜太郎 (一)	1931	無題 (読者書簡)	1 (1) : 147
『実践国語教育』			
黒川耕作 (榎原校)	1937	神通清峽処々	4 (8) : 46-47
	1937	高一指導実践案：瀧澤馬琴の苦心	4 (9) : 114-115
	1937	高一指導実践案：日の光	4 (10) : 116-117
	1937	高一読方指導案：鯨釣	4 (11) : 116-117
	1937	高一読方指導案：マルコ・ポーロ	4 (12) : 116-117
大澤野小学校国語研究部 (早瀬フジ・小坂千代・大坪ちよ)	1934	新読本に表はれた語彙と低学年語彙との比較研究 ：我が校一、二年について	1 (9) : 60-65
『工程』			
吉友一義 (八尾校)	1935	新緑の山々	1 (3) : 15
	1935	児童短歌の動向	1 (3) : 40-41
	1935	街路 (8月詩歌選)	1 (5) : 48
	1935	八尾のプロファイル (わしが国さ)	1 (5) : 54-55
田中のぶ子 (愛宕校)	1936	町の子供に	2 (12) : 56-57
『綴方学校』			
田中のぶ子 (愛宕校)	1937	4年の1学期を迎えて	1 (4) : 32
	1937	秋	1 (12) : 53

(2) 文集の寄贈状況

富山県の教師が対象雑誌に寄贈し、誌面にて公表された文集等は次のとおりである (表 2-2)。

表 2-2：富山県の教師による文集の寄贈状況

編者／寄贈者	著者	年	題目	巻号：頁	紹介文集
『綴方生活』					
高岡静作 (佐野校)	小砂丘忠義	1935	文集人名簿	7 (5) : 8-15	『卒業文集』
	小砂丘忠義	1935	文集人名簿	7 (6) : 8-9	『生活』 尋 6 高 1
『教育・国語教育』					
青島敏治 (油田校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (12) : 128-145	『土の匂ひ』
青柳信一 (一)	無署名	1936	文集紹介	6 (5) : 25-26	『星の國』 15号
飯田誠一 (飯野校)	千葉春雄	1933	文集談義	3 (10) : 117-134	『そのけ』 1号
	千葉春雄	1934	文集談義	4 (7) : 124-132	『そのけ』 2号
	千葉春雄	1934	文集談義	4 (11) : 128-145	『そのけ』 3号
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (5) : 126-134	『そのけ』 4号
飯原丈頃 (富山女師附小)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (7) : 124-132	『児童界』 7巻 3号
久保正一 (日中上野校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (1) : 126-135	『緑園』
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (5) : 126-134	『りよくえん』 5号
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (8) : 149-152	『りよくえん』
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (10) : 148-152	『りよくえん』 4巻 2号
桑原一治 (奥田校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (11) : 128-145	『双葉』 4号
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (5) : 126-134	『双葉』 2号
	無署名	1936	文集紹介	6 (5) : 25-26	『双葉』 5号
清水繁次 (日中上野校)	無署名	1936	文集紹介	6 (5) : 25-26	『りよくえん』 4号
清水徳義 (八尾校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (4) : 152-158	『龍蟠』 80号
社浦与三郎 (富山師附小)	富原義徳	1937	全日本文集展望	7 (10) : 156-159	『国語教育に関する研究』 研究発表パンフレット
高柳信一 (速星校)	無署名	1936	文集紹介	6 (5) : 25-26	『青空』 1号
多胡義喜 (一)	千葉春雄	1936	文集談義	6 (1) : 184-190	『氷柱』 2号

	千葉春雄	1936	文集月評	6 (3) : 148-159	『氷柱』
館川数夫 (大久保校)	千葉春雄	1932	各地の児童文集を読む	2 (9) : 112-137	『つどひ』 学校文集
	千葉春雄	1932	文集談義	2 (12) : 90-102	『つどひ』 15号 学校文集
	千葉春雄	1933	文集談義	3 (10) : 117-134	『つどひ』 16号 学校文
	千葉春雄	1934	文集談義	4 (7) : 124-132	『つどひ』 19号
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (7) : 144-148	『つどひ』 23号
	千葉春雄	1936	文集談義	6 (1) : 184-190	『つどひ』 24号
田中のぶ子 (愛宕校)	千葉春雄	1936	文集月評	6 (2) : 150-158	『あたご』 尋2
	無署名	1936	文集紹介	6 (5) : 25-26	『あたご』
	千葉春雄	1936	文集談義	6 (8) : 154-157、117	『あたご』 尋3
	千葉春雄	1937	文集談義	7 (6) : 89-92	『あたご』 6号 尋3
	野村芳兵衛	1938	全日本文集展望	8 (3) : 154-159	『あたご』 7号 尋4
寺島久雄 (山室校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (7) : 124-132	『蘭秀』 3号
	千葉春雄	1934	文集談義	4 (11) : 128-145	『蘭秀』 4号
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (2) : 132-139	『蘭秀』 5号
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (5) : 126-134	『蘭秀』 6号
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (8) : 149-152	『蘭秀』 7号
	千葉春雄	1936	文集談義	6 (1) : 184-190	『蘭秀』 8号
	無署名	1936	文集紹介	6 (5) : 25-26	『蘭秀』 9号
	富原義徳	1937	全日本文集展望	7 (9) : 151-155	『蘭秀』 12号 学校文集
中西幸作 (猪谷校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (7) : 124-132	『濡岩』 創刊号
	千葉春雄	1934	文集談義	4 (11) : 128-145	『濡岩』 2号
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (7) : 144-148	『濡岩』 3号
野村幸作 (濱黒崎校)	無署名	1936	文集紹介	6 (5) : 25-26	『濱ごぼう』 22・23号
廣瀬一義 (八尾校)	千葉春雄	1933	文集談義	3 (10) : 117-134	『光る土』 5号 尋5
	千葉春雄	1933	文集談義	3 (10) : 117-134	『ちから』 74号 学校文集
	千葉春雄	1933	文集談義	3 (10) : 117-134	『ちから』 7月号 高学年
	千葉春雄	1933	文集談義	3 (10) : 117-134	『光る土』 6号
堀田 (奥田校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (2) : 132-139	『双葉』 1号
宮本静二 (八尾校)	千葉春雄	1936	文集談義	6 (1) : 184-190	『龍蟠』 82号
	無署名	1936	文集紹介	6 (5) : 25-26	『龍蟠』 83号
山川 (五百石校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (2) : 132-139	『大和心』
綴方研究部 (山室校)	千葉春雄	1936	文集談義	6 (8) : 154-157、117	『蘭香』 全校文集
綴方研究部 (大久保校)	千葉春雄	1936	文集談義	6 (8) : 154-157、117	『つどひ』 学校文集
富山師範附小	富原義徳	1937	全日本文集展望	7 (12) : 156-159	『児童文叢』 12号 学校文集
	野村芳兵衛	1938	全日本文集展望	8 (1) : 154-159	『児童文叢』 13号 学校文集
	野村芳兵衛	1938	全日本文集展望	8 (7) : 153-159	『児童文叢』 15・16号
— (戸出校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (11) : 128-145	『文集』
— (鶺鴒校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (5) : 126-134	『玉垣』 2号
— (宇波校)	野村芳兵衛	1938	全日本文集展望	8 (7) : 153-159	『事変と子供』 学校文集
『実践国語教育』					
安吉外司 (野尻校)	西原慶一・滑川道夫	1935	全国優秀児童文詩集展望	2 (3) : 134-135	『白い道』 2号、尋5
桑原一治 (奥田校)	西原慶一・滑川道夫	1934	全国優秀児童文詩集展望	1 (8) : 182-183	『双葉』 4号 学校文集
	西原慶一・滑川道夫	1935	全国優秀児童文詩集展望	2 (6) : 134-135	『双葉』 2号 学校文集
	編集部	1935	文集遠近	2 (9) : 88-89	『双葉』 3号 学校文集
黒川耕作 (楡原校)	—	1938	研究冊子	5 (9) : 103	『革新期に於ける教育方法の研究』
	—	1940	文集紹介	7 (4) ; 41	『児童文集』 学年文集
館川数夫 (大久保校)	西原慶一・滑川道夫	1934	全国優秀児童文詩集展望	1 (5) : 134-135	『つどひ』 18号 学校文集
	—	1935	文集・綴方教室事象記述	2 (8) : 187	『つどひ』 23号 学校文集
	編集部	1936	文集遠近	3 (1) : 25	『つどひ』
	編集部	1936	文集遠近	3 (10) : 97	『つどひ』
	研究所	1937	文集遠近	4 (5) : 129	『つどひ』 28号 学校文集
寺島久雄 (山室校)	西原慶一・滑川道夫	1935	全国優秀児童文詩集展望	2 (5) : 134-135	『蘭秀』 6号 学校文集
	編集部	1935	文集遠近	2 (9) : 88-89	『蘭秀』 7号 学校文集
	編集部	1936	文集遠近	3 (1) : 25	『蘭秀』 8号 学校文集
	編集部	1936	文集遠近	3 (5) : 55	『蘭秀』
	—	1938	文集遠近	5 (2) : 93	『蘭秀』 14号 学校文集
西部鳴杜 (五鹿屋校)	編集部	1937	文集遠近	5 (1) : 92-93	『楓』 1号 学校報と詩文集
— (大澤野校)	編集部	1936	文集遠近	3 (3) : 116	『無花果』 学芸会の記録号
『工程』					

川口清 (八幡校)	百田宗治	1936	文集展望	2 (12) : 74-76	『さんせうの葉つば』全校詩集
高柳信一 (速星校)	百田宗治	1936	文集展望	2 (6) : 61-63	『青空』1号
田中のぶ子 (愛宕校)	百田宗治	1936	文集展望	2 (2) : 36-49	『あたご』2号 尋2
	百田宗治	1936	文集展望	2 (7) : 46-47	『あたご』3号 尋2
	百田宗治	1936	文集展望	2 (9) : 44-47	『あたご』4号 尋3
野村幸作 (濱黒崎校)	百田宗治	1935	全国文詩集採点	2 (1) : 37-42	『濱ごぼう』1号
	百田宗治	1936	文集展望	2 (6) : 61-63	『濱ごぼう』2号 尋4
	百田宗治	1936	文集展望	2 (6) : 61-63	『濱ごぼう』3号 尋4
	百田宗治	1936	文集展望	2 (6) : 61-63	『濱ごぼう』4号 尋4
桑原一治 (奥田校)	百田宗治	1935	全国文集採点	1 (6) : 63-65	『双葉』3号
	—	1936	文集展望	2 (7) : 46-47	『双葉』5号 学校文集
— (山室校)	百田宗治	1936	全国文詩集採点	2 (1) : 37-42	『蘭秀』7・8号
	百田宗治	1936	文集展望	2 (9) : 44-47	『蘭秀』10号 学校文集
— (速星校)	—	1936	文集展望	2 (7) : 46-47	『星の國』4巻15号 学校文集
『綴方学校』					
柏野奎吾 (櫛田校)	百田宗治	1940	今月の文集	4 (2) : 45-47	『樞の実』8~14号 尋6
高柳信一 (速星校)	百田宗治	1937	全校文集展望	1 (1) : 61-63	『青空』3号 尋5
田中のぶ子 (愛宕校)	百田宗治	1937	全校文集展望	1 (1) : 61-63	『あたご』5号 尋3
	百田宗治	1937	文集点検	1 (12) : 70-71	『モラル』
	百田宗治	1938	文集点検	2 (2) : 61-63	『モラル』2号
	百田宗治	1938	文集点検	2 (3) : 69-71	『あたご』尋4
寺島久雄山室校	百田宗治	1937	文集展望	1 (10) : 54-55	『蘭秀』13号 学校文集
守田久雄 (濱黒崎校)	百田宗治	1938	文集展望	2 (12) : 66-71	『くろさき』尋5
	百田宗治	1939	文集展望	3 (3) : 69-71	『くろさき』2号
— (五鹿屋校)	百田宗治	1937	文集点検	1 (12) : 70-71	『楓』1号
— (宇波校)	百田宗治	1938	文集点検	2 (6) : 69-71	『事変と子供』学校文集
『工程通信』					
寺島久雄 (山室校)	百田宗治	1937	全国文集展望	3 (4) : 2-4	『蘭秀』12号 学校文集

(3) 子どもの生活綴方作品の公開状況

対象雑誌の誌面において公表された富山県の子どもの生活綴方作品は次のとおりである (表 2-3)。

表 2-3 : 富山県の子どもの生活綴方作品の公開状況

指導者名	作者	年	題目	巻号 : 頁
『工程』				
飯田誠一 (飯野校)	島先良二 (尋5)	1935	馬の足あらひ	1 (5) : 53
桑原一治 (奥田校)	岡田和郎 (尋4)	1935	運河	1 (7) : 21
高柳信一 (速星校)	松永義治 (尋4)	1936	寒い朝	2 (2) : 62
	柳盛太郎 (尋4)	1936	大水	2 (10) : 33
田中のぶ子 (愛宕校)	岡崎三郎 (尋2)	1936	雪ころがし	2 (2) : 58-59
	鴨島周一 (尋2)	1936	雪	2 (3) : 34
	松本昭子 (尋2)	1936	かんゆ	2 (3) : 40
	小泉輝一 (尋2)	1936	もえないすと一ぶ	2 (4) : 60
	八川昇 (尋2)	1936	春が来るぞ	2 (5) : 5 ※1
	松本照子 (尋2)	1936	ごほうびが来たぞ	2 (5) : 20
	鷹股春枝 (尋3)	1936	あつい日のおつかひ	2 (9) : 52
	岡崎三郎 (尋2)	1936	雪ころがし	2 (10) : 10
	松本昭子 (尋2)	1936	かんゆ	2 (10) : 11
	鴨島周一 (尋2)	1936	雪	2 (10) : 11
	八川昇 (尋2)	1936	春が来るぞ	2 (10) : 11
	小泉輝一 (尋2)	1936	すと一ぶ	2 (10) : 11
	金川久子 (尋3)	1936	雨ふり	2 (10) : 19-20
	鷹股春枝 (尋3)	1936	おつかひ	2 (10) : 20
	鷹股春枝 (尋3)	1936	ひよこ	2 (10) : 100-101
翠田淳子 (尋3)	1936	ごはんたき	2 (11) : 34-35	
北島茂子 (尋3)	1936	月	2 (12) : 60	
寺島久雄 (山室)	武田淳 (尋1)	1936	雪ミチ	2 (10) : 5
野村幸作 (濱黒崎校)	佐々木弘通 (尋4)	1936	競馬場	2 (2) : 61-62
	寺西幸一 (尋4)	1936	馬乗り	2 (10) : 35
	佐々木弘道 (尋4)	1936	競馬場のはつ雪	2 (10) : 35
	河邊ヨシユ (尋4)	1936	立山の雪	2 (10) : 35-36
廣瀬一義 (八尾校)	高木秀 (尋3)	1935	雪崩	1 (1) : 50

一 (今町校)	柿谷久枝 (尋5)	1935	そばの種	1 (3) : 42-43
『綴方学校』				
田中のぶ子 (愛宕校)	京田悦子 (尋3)	1937	電気	1 (1) : 52-53
	南ツヨ子 (尋3)	1937	ゆうべの火事	1 (2) : 63
	松本昭子 (尋3)	1937	春が来るぞ	1 (4) : 70
	千田タミ子 (尋3)	1937	こうばのでんき	1 (5) : 49
	川崎美智子 (尋4)	1937	なまへをほつてもろた	1 (7) : 61
	田尻保子 (尋4)	1937	洋子ちゃんの頭の毛	1 (7) : 64
	松本昭子 (尋3)	1937	書初もやし	1 (8) : 18
	南ツヨ子 (尋3)	1937	ゆうべの火事	1 (8) : 18
寺島久雄 (山室)	鷹股春枝 (尋3)	1937	ぎいちよ	1 (8) : 21
	中川信昌 (尋5)	1937	スキー	1 (8) : 59
『月刊文章 (全日本子供の文章)』				
田中のぶ子 (愛宕校)	松井比奈子 (尋3)	1937	雲の日の教室	3 (5) : 70-71
『詩の本 (工程)』				
田中のぶ子 (愛宕校)	鷹股春枝 (尋4)	1937	私の蝶	3 (9) : 4-5
	山瀬和子 (尋4)	1937	くも	3 (9) : 8
	林みどり (尋4)	1937	くも	3 (10) : 11

(4) 小括

富山県では、13名の教師と、1つの研究部が対象雑誌において論考等を発表している。とくに飯原丈頃、岩崎直義、黒川耕作、社浦与三郎、田中のぶ子は、5本以上の論考等を発表している。また、館川数夫による学校文集『つどひ』、寺島久雄による学校文集『蘭秀』、田中のぶ子の学級文集『あたご』は継続的に寄贈されている。とくに田中のぶ子が指導した子どもの作品は、延べ30本が紹介されているものの、その多くは子どもの作品の紹介特集号に掲載されている。つまり、富山県では、飯原丈頃と社浦与三郎といった師範学校附属小学校に所属する教師が理論的発信をおこない、館川数夫・寺島久雄・田中のぶ子といった尋常／尋常高等小学校に所属する教師が文集活動をおこなっていた。こうした傾向は、例えば、師範学校附属小学校に所属する荒瀬実や清原馨、校長を務めている高島秀一や黒川耕作らの論考は散見される一方で、文集の寄贈数が低い点にも現れている。

なお、雑誌『教育・国語教育』に文集を寄贈している多胡義喜は、童謡詩人の多胡羊歯の本名である。また、岩崎直義は戦後期に民謡や民話の収集・執筆をおこなっている。このように、富山県の文学に関する人物の名前も散見される。

第3節 石川県における生活綴方をめぐる状況

(1) 教師の執筆状況

石川県の教師による論考等は次のとおりである (表3-1)。

表3-1：石川県の教師による執筆状況

著者	年	題目	巻号：頁
『綴方生活』			
寺西正雄 (川尻校)	1935	無題 (新学年の綴方プランを聴く)	7 (4) : 29
吉田政男 (芳齋校)	1935	無題 (新学年の綴方プランを聴く)	7 (4) : 15-16
	1935	童詩指導者名簿 (2)	7 (9) : 56
	1936	若き主任の悲哀	8 (5) : 60-63
	1937	グループ活動とその将来性	9 (2) : 36-37
	1937	無題 (ハガキ通信)	9 (3) : 17
	1937	無題 (はがき通信)	9 (7) : 35
	1937	会話文指導の根基：会話文指導論の序	9 (9) : 39-47
『教育・国語教育』			
木谷與作 (小将校)	1932	落葉焚く日 (短歌 寒風にうたへる)	2 (1) : 24-25
	1932	病床にてうたへる (浅春詠)	2 (3) : 73
	1932	北国漁村風景	2 (5) : 104-107
	1932	砂浜風景 (短歌)	2 (8) : 67

中村正衛 (余喜校)	1934	能登の鹿島から	4 (4) : 22-29
橋本純一 (芳齋校・第三中学校)	1939	書方指導訓練について	9 (8) : 64-65
	1939	書方成績判定 (審査) の標準	9 (8) : 71-72
米田政策 (石川師範附小)	1937	考查の対象と方法	7 (7) : 133-137
	1938	板書の機構と学習ノート	8 (2) : 34-36
	1938	尋三読方：東郷元帥 (3月の読方実践プラン)	8 (3) : 51-53
	1938	読解力を如何にして養成せしむべきか ：自力による解明への実践的企画	8 (6) : 80-82
	1938	県教育界素描	8 (8) : 116
『実践国語教育』			
木谷與作 (小將校)	1935	無題 (共同研究 低学年読方教育の力点)	2 (6) : 26
	1937	仕事	4 (2) : 76
中村正衛 (余喜校)	1940	純一ならざる場合	7 (6) : 45
米田政策 (石川師範附小)	1936	松茸	3 (12) : 99
	1937	ことばの推進力と実践方途	4 (3) : 77-79
	1937	表現の如実性と解釈の心構	4 (5) : 61-63
	1937	能登半島の夏	4 (8) : 52-53
	1938	総合的解釈の指導実践：中学年過渡的方途として	5 (2) : 71-73
	1938	解釈の実践的二性格の関連 ：教室事象の返照から明日を念願して	5 (5) : 60-62
	1938	題目をめぐる理会への問題	5 (7) : 58-59
	1940	積極的に何とか	7 (5) : 45-46
	1940	個に徹する：「国語教室」実践の反省	7 (10) : 27-28
石川県師範附小 (米田政策・馬場末吉)	1940	無題 (平仮名提出法と話方の機構)	7 (7) : 23
『工程』			
木谷與作 (小將校)	1935	無題 (私の文集・文集をどう活用するか)	1 (9) : 43
階戸二郎 (森山校)	1936	金澤を描く	2 (8) : 45-46
寺西正雄 (川尻校)	1935	無題 (私の文集・文集をどう活用するか)	1 (9) : 40
中村正衛 (一)	1935	生活解放!	1 (2) : 62-63
前川長作 (大根布校)	1935	無題 (夏休みの綴方課題私案)	1 (4) : 56
山崎利一 (石川師範附小)	1935	無題 (夏休みの綴方課題私案)	1 (4) : 56
吉田政男 (芳齋校)	1935	無題 (私の文集・文集をどう活用するか)	1 (9) : 43
『綴方学校』			
階戸二郎 (森山校)	1937	取材帳と文題表	1 (2) : 30-31
寺西正雄 (川尻校)	1937	農繁期の勉強から	1 (9) : 38-39
前川長作 (大根布校)	1937	四つの段階	1 (9) : 39

(2) 文集の寄贈状況

石川県の教師が対象雑誌に寄贈し、誌面にて公表された文集等は次のとおりである (表 3-2)。

表 3-2：石川県の教師による文集の寄贈状況

編者／寄贈者	著者	年	題目	巻号、頁	紹介文集
『綴方生活』					
河嶋禮芳 (輪島男児校)	小砂丘忠義	1935	文集人名簿	7 (7) : 57	『もしほ』3号 尋6の3
寺西正雄 (川尻校)	田川貞二	1935	寄贈を願った文集	7 (1) : 12-15	『ささやき』2号 高1
	田川貞二	1935	文集人名簿	7 (2) : 4-9	『ささやき』3号 高1
	田川貞二	1935	文集人名簿	7 (5) : 6-8	『ささやき』4号 高1
和田敏夫 (宇野気校)	小砂丘忠義	1935	文集人名簿	7 (7) : 57	『新刊の窓から』99号 学校文集
『実践国語教育』					
金石校	—	1938	文集遠近	5 (1) : 92-93	『いそなみ』14号 学校文集
石川師範附小 初等教育研究会	—	1938	研究パンフレット	5 (2) : 93	『第33回冬季講習会 講話要目並学習指導案』
『教育・国語教育』					
大谷昌太郎 (森山校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (2) : 132-139	『ゆりかご』1号 尋2
河陽礼芳 (輪島校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (7) : 144-148	『もしほ』3号 尋6
階戸二郎 (森山校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (11) : 128-145	『文の林』1・2号 尋4
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (2) : 132-139	『文の林』2・3号 尋4
	千葉春雄	1936	文集談義	6 (8) : 154-157, 117	『もり山』 全校文集
柴木三郎 (波佐谷校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (1) : 126-135	『友の聲』1号
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (10) : 148-152	『友の聲』2号
	千葉春雄	1936	文集月評	6 (2) : 150-158	『友の聲』 学校文集
	無署名	1936	文集紹介	6 (5) : 25-26	『友の聲』4号

	千葉春雄	1937	文集談義	7 (7) : 155-158	『友の聲』7号
白井清 (富来校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (3) : 128-135	『しほ風』 尋5
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (6) : 144-149	『しほかぜ』2号 尋5
進藤歳治 (富来校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (12) : 128-145	『すだれ』12号 学校文集
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (5) : 126-134	『すだれ』3号
平清子 (花町校)	無署名	1936	文集紹介	6 (5) : 25-26	『スタート後の歩み』2号
辻田末松 (町野校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (6) : 144-149	『猫柳』3号
	千葉春雄	1936	文集談義	6 (1) : 184-190	『五里分』 高等科
	千葉春雄	1936	文集談義	6 (1) : 184-190	『晴嵐』 高等科
	千葉春雄	1936	文集談義	6 (1) : 184-190	『星』15号
寺西正雄 (川尻校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (12) : 128-145	『さゝやき』2号 高1
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (2) : 132-139	『さゝやき』3号 高1
中本恕堂 (美川校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (8) : 149-152	『飛石』 全国文集
	無署名	1936	文集紹介	6 (5) : 25-26	『飛礫』19号
	千葉春雄	1936	文集談義	6 (11) : 128-129	『飛礫』20号
中川隆治 (森山校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (2) : 132-139	『望湖』12号 尋6
中村正衛 (余喜校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (5) : 89-97	『葭茂ル』 尋6
	千葉春雄	1934	文集談義	4 (12) : 128-145	『葭茂ル』2号 高1 尋6
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (2) : 132-139	『おちぼ』 学校文集
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (3) : 128-135	『葭茂ル』 尋6
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (5) : 126-134	『余喜教育』
中村正衛 (七尾男児校)	千葉春雄	1936	文集月評	6 (2) : 150-158	『新しい朝』 尋5
	千葉春雄	1936	文集紹介	6 (5) : 25-26	『詩集』
蓮井一幸 (波佐谷校)	千葉春雄	1936	文集談義	6 (10) : 108-111	『友の聲』5号 学校文集
藤村勝男 (森山校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (12) : 128-145	『文の林』3号 尋4
梶野甚一 (南郷校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (12) : 128-145	『満洲派遣軍慰問通信』 尋6
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (10) : 148-152	『ナンゴウ』2号
山本作次 (松任校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (2) : 132-139	『コダマ』2号 尋5
吉田政男 (芳齋校)	千葉春雄	1936	文集談義	6 (1) : 184-190	『どんぐり』
渡部虎一 (上小松校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (3) : 128-135	『土』 学校文集
市教育会綴方部 金沢市初等教育研究会	千葉春雄	1936	文集談義	6 (8) : 154-157、117	『かなざは』
— (芳齋校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (12) : 128-145	『雪どけ』 尋5
	千葉春雄	1934	文集談義	4 (12) : 128-145	『青いあひる』
	千葉春雄	1934	文集談義	4 (12) : 128-145	『らくだ』
	千葉春雄	1937	文集談義	7 (7) : 155-158	『芳齋』 児童文特集号
— (鳥屋校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (1) : 126-135	『学校文集』
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (1) : 126-135	『手紙文集』
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (3) : 128-135	『手紙文集』
— (森山校)	千葉春雄	1935	文集談義	5 (1) : 126-135	『森山文集』
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (2) : 132-139	『つぼみ』12号 尋5
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (2) : 132-139	『よろこび』 尋3
『工程』					
今井一二 (一)	百田宗治	1936	文集展望	2 (3) : 51-68、79	『鶴川のこども』2号 尋6
岩田一久 (押野校)	百田宗治	1936	文集展望	2 (9) : 44-47	『野むぎ』4・5月 尋5
北村季夫 (湊校)	百田宗治	1936	文集展望	2 (3) : 51-68、79	『まつかさ』3・4号 尋6
柴木三郎 (波佐谷校)	百田宗治	1935	全国文詩集採点	1 (7) : 86-87	『友の聲』2号
	百田宗治	1936	文集展望	2 (3) : 51-68、79	『友の聲』3号 学校文集
	百田宗治	1936	文集展望	2 (7) : 46-47	『友の聲』4号 学校文集
寺西正雄 (川尻校)	百田宗治	1935	文詩集紹介	1 (5) : 70	『生活』1号
	百田宗治	1935	全国文詩集採点	1 (7) : 86-87	『とんぼ』3号 高1
	百田宗治	1935	全国文詩集採点	1 (7) : 86-87	『くつずれ』 旅行文集
	百田宗治	1936	全国文詩集採点	2 (1) : 37-42	『生活』4号
	百田宗治	1936	文集展望	2 (3) : 51-68、79	『生活』5号 高1
	百田宗治	1936	文集展望	2 (4) : 80-85	『あみすき』6号
	百田宗治	1936	文集展望	2 (6) : 61-63	『生活』7号
	百田宗治	1936	文集展望	2 (7) : 46-47	『雪 (生活)』8号 高1
蓮井一幸 (波佐谷校)	百田宗治	1936	文集展望	2 (10) : 117-119	『ならし (生活)』9号
	百田宗治	1936	文集展望	2 (11) : 77-78	『友の聲』5号
前川長作 (大根布校)	百田宗治	1935	全国文詩集採点	1 (7) : 86-87	『鍬の丘』2号 高1
	百田宗治	1936	文集展望	2 (4) : 80-85	『鍬の丘』3号
	百田宗治	1936	文集展望	2 (11) : 77-78	『鍬の丘』4号 高1
金沢市初等教育 研究会綴方部	百田宗治	1936	文集談義	2 (8) : 75-77	『かなざは』 (昭和10年度版) 市文集
綴方研究部 (森山校)	百田宗治	1936	文集談義	2 (8) : 75-77	『もりやま』 学校文集
『綴方学校』					

岩田一久 (押野校)	百田宗治	1937	全校文集展望	1 (1) : 61-63	『きらば』2号 尋5
小笠原弘英 (上鍛冶町児童団)	百田宗治	1938	文集展望	3 (5) : 69-71	『街の子供』
寺西正雄 (川尻校)	百田宗治	1937	文集点検	1 (11) : 54-55	『生活』
岩田和久・寺西正雄 (一)	百田宗治	1937	文集展望	1 (10) : 54-55	『文集石川』
『工程通信』					
柴木三郎 (長野校)	百田宗治	1937	全国文集展望	3 (3) : 1-4	『詩集』 尋4
寺西正雄 (川尻校)	百田宗治	1937	全国文集展望	3 (3) : 1-4	『連』1号 学校文集
	百田宗治	1937	全国文集展望	3 (4) : 2-4	『あせ』 高1
西川鐵之助 (長土塀校)	百田宗治	1937	文集展望	3 (5) : 6-7	『青空と旗』
蓮井一幸 (波佐谷校)	百田宗治	1937	全国文集展望	3 (2) : 6-7	『拓野』1号
	百田宗治	1937	全国文集展望	3 (3) : 1-4	『友の聲』6号 学校文集

(3) 子どもの生活綴方作品の公開状況

対象雑誌の誌面において公表された富山県の子どもの生活綴方作品は次のとおりである (表 3-3)。

表 3-3 : 石川県の子どもの生活綴方作品の公開状況

指導者名	作者	年	題目	巻号 : 頁
『教育・国語教育』				
吉田政男 (芳齋校)	矢部孝之	1937	銅 (研究文)	7 (6) : 84-85
『実践国語教育』				
—	西村啓子 (馬場校・尋3)	1940	遠足	7 (10) : 38-39
—	西村啓子 (馬場校・尋3)	1940	遠足 (前号に続く)	7 (11) : 44-45
『工程』				
岩田一久 (押野校)	坂田芳一 (尋5)	1936	魚とり	2 (10) 43
北村季夫 (湊校)	米澤鐵雄 (尋6)	1936	朝日	2 (10) : 57
柴木三郎 (波佐谷校)	高山幸雄 (高1)	1936	流星	2 (10) : 76
	木下義正 (高2)	1936	或晩	2 (10) : 83
	村西盛行 (高2)	1936	鳥山	2 (10) : 83-84
中村正衛 (余喜校)	— (尋6)	1935	田んぼ	1 (3) : 61
寺西正雄 (川尻校)	中島幸男 (高1)	1935	苗	1 (7) : 51
	小坂四十八 (高1)	1936	養鶏日記	2 (1) : 35-36
	中島幸男 (高1)	1936	夜仕事	2 (3) : 46
	北川まさ子 (高1)	1936	あみすき	2 (10) : 76-77
	中島幸男 (高1)	1936	嬉しさ	2 (10) : 77
	中島幸男 (高1)	1936	夜仕事	2 (10) : 77
前川長作 (大根布校)	油木甚松 (高1)	1936	大根島	2 (2) : 71
	西川長松 (高1)	1936	我が家	2 (5) : 19 ※1
	西田勇 (高2)	1936	春	2 (7) : 13-14 ※1
	油木甚松 (高2)	1936	川岸	2 (7) : 15 ※1
	油木甚松 (高2)	1936	夕陽	2 (11) : 32-33
	島野重一 (高1)	1936	夕暮	2 (11) : 41
和田敏夫 (宇ノ気校)	西川長松 (高1)	1936	爐	2 (12) : 70-71
	橋長市 (尋4)	1936	しづく	2 (5) : 9 ※1
	村田正一 (尋3)	1936	草もち	2 (5) : 19 ※1
	西村繁 (尋3)	1936	草もち	2 (5) : 19 ※1
『綴方学校』				
今井一二 (万行校)	橋爪キクノ (高2)	1938	田切り	2 (7) : 45
	寅松清子 (高2)	1938	たんぼ切り	2 (7) : 50
	澤味清雄 (高2)	1938	蛙たたき	2 (7) : 50-51
岩田一久 (押野校)	北久雄 (尋5)	1937	豆うち	1 (8) : 48
	坂田芳一 (尋5)	1937	自転車そうじ	1 (8) : 48
	前田静子 (尋5)	1937	名古屋の兄	1 (8) : 52
	新納外治 (尋5)	1937	わらきり	1 (8) : 58
	西尾啓二 (尋5)	1937	豆はこび	1 (8) : 62
大筆栄夫 (額校)	寺西シズエ (尋4)	1938	弟	2 (7) : 46
階戸二郎 (森山校)	中島太喜雄	1937	僕の兄さん	1 (1) : 35
	中島太喜雄 (尋6)	1937	新聞屋	1 (3) : 58
	中島太喜雄 (尋6)	1937	僕の兄さん	1 (8) : 70-71
佐藤義信 (美川校)	梅本芳文 (尋6)	1938	祭に買った財布	2 (1) : 63-65
柴木三郎 (長野校)	山崎利一 (尋4)	1937	足袋	1 (1) : 50
	長野久枝 (尋4)	1937	お母さん	1 (1) : 53

	長野久枝 (尋4)	1937	お母さん	1 (8) : 36
寺西正雄 (川尻校)	野竹武雄 (高2)	1937	鳥	1 (8) : 92
	西田鐵 (高2)	1937	舟小屋なほし	1 (8) : 96
	中島幸男 (高2)	1937	秋	1 (8) : 96
	洞庭金二 (高2)	1937	米かたみ	1 (8) : 96-97
	洞庭金二 (高2)	1937	夜廻	1 (8) : 97
西川鐵之助 (長土堀校)	長谷貞次郎 (尋2)	1937	向ふのはたけ	1 (8) : 12
蓮井一幸 (波佐谷校)	木下勝男 (高1)	1937	米かち	1 (8) : 87-88
前川長作 (大根布校)	南善一 (高1)	1937	はだし足袋	1 (1) : 50
	恩道勇 (高1)	1937	土産	1 (1) : 59
	夷藤一雄 (高2)	1937	霜焼	1 (2) : 56
	川本静江 (高2)	1937	雨だれ	1 (7) : 67
	彦坂正三 (高2)	1937	れんこかへし	1 (7) : 68
	島野重一 (高1)	1937	夕暮	1 (8) : 81-82
	油木甚松 (高1)	1937	夕暮	1 (8) : 82
	恩道勇 (高1)	1937	土産	1 (8) : 82
	荒川仁三雄 (高1)	1937	五月	1 (8) : 82
	西田勇 (高1)	1937	春	1 (8) : 82
	夷藤一雄 (高1)	1937	霜焼け	1 (8) : 82
	一 (高1)	1937	川岸	1 (8) : 82-83
	出山安成 (高1)	1937	足袋	1 (8) : 86
	伊戸川実 (高1)	1937	わが家	1 (8) : 86
	高木久松 (高1)	1937	穴だめ	1 (8) : 88-89
	夷藤一雄 (高1)	1937	思ひ出	1 (8) : 89
島野重一	1938	夕暮	2 (1) : 24	
『月刊文章 (全日本子供の文章)』				
岩田一久 (押野校)	新宅外喜男 (尋5)	1937	稲こき	3 (5) : 106-108
竹田ミカ (押野校)	清水キヨメ (尋1)	1937	サギチョウ	3 (5) : 36-37
一 (森山校)	久野正 (尋4)	1937	殻から出るせみ	3 (5) : 92-93
『詩の本 (工程)』				
大筆栄夫 (額校)	山崎好子 (尋4)	1938	いなご焼き	4 (1) : 7
前川長作 (大根布校)	島崎外志子 (尋6)	1937	せんたく	3 (10) : 13
	島崎外志子 (尋6)	1937	夜道	3 (11) : 9
	米林信子 (高2)	1938	洗濯	4 (3) : 15

(4) 小括

石川県では、10名の教師と、1つの学校が対象雑誌において論考等を発表している。とくに吉田政男、木谷與作、米田政策が多くの論考等を発表している。しかし、吉田政男や木谷與作が発表しているものは詩歌や、感想を綴ったハガキが中心である。吉田政男や木谷與作は、戦後期に石川県下の児童文学の分野において活躍をみせる教師である。また、文集紹介欄においては、柴木三郎の学校文集『友の聲』、寺西正雄の『さゝやき』・『生活』、中村正衛の『葭茂ル』などの文集が継続的に寄贈されている。誌面において紹介されている子どもの作品は、寺西正雄の延べ11本、前川長作の延べ24本となっている。前川長作の指導作品が24本となっているのは、作品紹介の特集号に掲載されたという事由による。つまり、石川県においては米田政策が中心となって理論的論考を発表し、尋常／尋常高等小学校の教師たちが文集活動をおこなっていた。

第4節 福井県における生活綴方をめぐる状況

(1) 教師の執筆状況

福井県の教師による論考等は次のとおりである (表4-1)。

表4-1：福井県の教師による執筆状況

著者	年	題目	巻号：頁
『教育・国語教育』			
伊藤幸 (福井師範附小)	1397	読方科成績考査に関する研究	7 (2) : 121-126
	1937	高一読方：護国の目と腕 (11月の読方実践プラン)	7 (11) : 45-46

	1937	高一読方：俳句（12月の読方実践プラン）	7（12）：106-108
	1938	高二読方：空の景色（6月の読方教室）	8（6）：50-51
岡島繁（鯖江女師附小）	1939	時局と綴方教育	9（1）：130-136
	1939	読方学習帳使用の本義	9（5）：61-65
	1940	板書機構の研究：尋二「豆まき」	10（2）：128-131
	1932	福井県の巻1（全日本国語教育人の展望）	2（1）：68-69
六神丸（一）	1932	福井県の巻1（全日本国語教育人の展望）	2（1）：68-69
辻井順（一）	1939	無題（短歌）	9（3）：104
刀禰勇治（敦賀校）	1931	海辺に眠る町敦賀	1（6）：76-81
	1392	氣比の松原（民謡と童謡）	2（1）：68-71
	1392	福井県の巻2（全日本国語教育人の展望）	2（1）：69-70
	1932	あくがれ（小曲）	2（2）：78-80
	1932	おもひで・雨は緑に（詩章）	2（5）：98-99
	1932	花換祭	2（6）：128-132
	1932	口語短歌の指導経過	2（7）：92-97
	1932	夕月・燃ゆる想ひ・灯ともし頃・さようなら！（詩篇）	2（10）：56-59
	1935	僕のポケット・月が出てます	5（4）：38-39
藤澤典明（一）	1939	「東京へ来て」座談会 （上田庄三郎・百田宗治・山内武男ほか）	9（7）：100-106
牧野正次（一）	1938	信念・節約・健康	8（8）：93
吉田幸夫（一）	1931	無題（短歌六人集）	1（9）：39
『実践国語教育』			
岡島繁（鯖江女師附小）	1935	読方教授に於ける所謂「話し合ひ」の再吟味	2（9）：52-56
	1935	読方学習上に於ける練習の地位	2（12）：21-25
	1936	語義指導の二方面	3（2）：18-21
	1936	読方教育上に於ける「多」と「一」の問題	3（4）：88-91
	1936	「話し言葉」の陶冶と読方教育	3（6）：69-73
	1937	尋六読方指導過程	4（4）：53-57
	1937	尋三指導実践案：天孫	4（9）：106-107
	1937	尋三指導実践案：村祭	4（10）：108-109
	1937	尋三読方指導案：山羊	4（11）：108-109
	1937	尋三読方指導案：神風	4（12）：108-109
	1938	「サクラ」の指導案（尋一）：読方指導実践案	5（4）：248-249
	1938	「メダカ」の指導案（尋一）：読方指導実践案	5（6）：104-105
	1938	「シタキリスズメ」の指導案（尋一）：読方指導実践案	5（7）：104-105
	1938	指導案作成の力点	5（9）：58
	1938	読みの明るさと豊かさ（一）	5（9）：70-74
	1938	読みの明るさと豊かさ（二）	5（10）：26-30
	1938	読みの明るさと豊かさ（三）	5（11）：24-30
	1939	低学年の板書機構：板書を師弟の共同作に	6（1）：65-69
	1939	沈黙の深層	6（3）：29-31
	1940	「天長節」の教室	7（4）：25-26
1941	「実・国」の思ひ出	8（3）：44-45	
刀禰勇治（敦賀校）	1934	綴方教育実践上の児童性凝視（農漁村綴方の反省と展開）	1（5）：66-69
	1935	児童詩に於ける「行の切り方」に関する指導	2（11）：146-151
	1936	新秋随筆	3（11）：100-101
『工程』			
刀禰勇治（敦賀校）	1935	緑の太陽（新短歌4人集）	1（2）：61
	1935	北陸の児童詩現勢（全日本綴方・童詩人鳥瞰2）	1（2）：68-69
	1935	海の家（8月詩歌選）	1（5）：33
『綴方学校』			
藤澤典明（成器校）	1938	綴方への疑ひ	2（12）：64-65

(2) 文集の寄贈状況

福井県の教師が対象雑誌に寄贈し、誌面にて公表された文集等は次のとおりである（表4-2）。

表4-2：福井県の教師による文集の寄贈状況

編者／寄贈者	著者	年	題目	巻号：頁	紹介文集
『教育・国語教育』					
天谷功（北中山校）	千葉春雄	1935	文集談義	5（1）：126-135	『いてふ』1号
	千葉春雄	1935	文集談義	5（5）：126-134	『ハタケ』2号 尋5
天谷功（吉江校）	千葉春雄	1935	文集談義	5（11）：149-153	『いてふ』2号
岡島繁（鯖江女師附小）	千葉春雄	1934	文集談義	4（12）：128-145	『ふもと』

片岡三七雄 (小浜校)	千葉春雄	1936	文集談義	6 (1) : 184-190	『ひびき』
田中幸 (鯖江女師附小)	千葉春雄	1932	各地の児童文集を読む	2 (9) : 112-137	『露の光』卒業記念号 尋6
	千葉春雄	1933	文集談義	3 (7) : 120-126	『露の光』5号
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (8) : 149-152	『青い朝』 尋3
刀禰勇治 (敦賀校)	千葉春雄	1932	各地の児童文集を読む	2 (9) : 112-137	『光の子』 学校童謡集
	千葉春雄	1932	各地の児童文集を読む	2 (9) : 112-137	『校友』 学校文集
	千葉春雄	1933	文集談義	3 (7) : 120-126	『校友』50号
	千葉春雄	1934	文集談義	4 (6) : 114-125	『青草と太陽』 詩集
	千葉春雄	1934	文集談義	4 (6) : 114-125	『校友』行幸記念号
	千葉春雄	1935	文集談義	5 (5) : 126-134	『校友』
古谷正美 (高浜校)	千葉春雄	1932	各地の児童文集を読む	2 (9) : 112-137	『鯨』 学校文集
出口喜太郎 (雲濱校)	千葉春雄	1933	文集談義	3 (12) : 110-115	『濱風』 尋3・4
山口太良 (雲濱校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (12) : 128-145	『浜風』 尋3・4
— (足羽校)	千葉春雄	1934	文集談義	4 (12) : 128-145	『星』 尋2
『実践国語教育』					
刀禰勇治 (敦賀校)	西原慶一 ・滑川道夫	1934	全国優秀児童文詩集展望	1 (1) : 158-159	『校友』48号 学校文集
鯖江女師附小	研究所	1937	研究パンフレット	4 (2) : 90-92	『研究要論』8号
『工程』					
新宅新一・文科研究会 (濱四郷校)	百田宗治	1935	全国文詩集採点	1 (7) : 86-87	『桃林』2号
	—	1936	文集展望	2 (7) : 46-47	『桃林』2巻2号 学校文集
山口亮 (糸生校)	—	1936	文集展望	2 (7) : 46-47	『落葉集』 高2 歌集
敦賀校校友会文芸部	百田宗治	1935	文集採点	1 (2) : 42-43	『校友』52号 学校文集
『綴方学校』					
朝日蔵松 (鯖江女師附小)	百田宗治	1940	今月の文集	4 (2) : 45-47	『明カルイ教室』1号 尋1
中村一郎 (村岡校)	百田宗治	1938	文集点検	2 (5) : 69-71	『勢の子』1号 尋5
藤澤典明 (乾側校)	百田宗治	1937	全校文集展望	1 (1) : 61-63	『牛ヶ原生活』1号 尋6
	百田宗治	1937	文集点検	1 (12) : 70-71	『成器の旗』 尋5
藤澤典明 (成器男子校)	百田宗治	1938	文集点検	2 (2) : 61-63	『成器の旗』2号 尋5
松村伊佐武 (鯖江女師附小)	吉田瑞徳	1939	今月の文集	3 (11) : 64-66	『大和撫子』1号
	百田宗治	1940	今月の文集	4 (2) : 45-47	『大和撫子』2号 尋5
力石輝太郎 (成器女子校)	百田宗治	1938	文集点検	2 (2) : 61-63	『つくゑ』1号 尋4

(3) 子どもの生活綴方作品の公開状況

対象雑誌の誌面において公表された福井県の子どもの生活綴方作品は次のとおりである (表 4-3)。

表 4-3 : 福井県の子どもの生活綴方作品の公開状況

指導者名	作者	年	題目	巻号 : 頁
『工程』				
刀禰勇治 (敦賀校)	楠太 (尋5)	1935	雪	1 (2) : 40
	おほつか・たくじ (尋2)	1935	つめたい風	1 (7) : 7-8
藤澤典明 (乾側校)	竹内イトエ (尋5)	1936	ろうそく	2 (4) : 68
『綴方学校』				
藤澤典明 (乾側校)	北澤光雄 (尋6)	1937	水あて	1 (8) : 70
	川瀬甚三郎 (尋6)	1937	水あて	1 (8) : 80-81
中村一郎 (村岡校)	門治平	1938	よい天気	2 (6) : 49
	竹内繁 (尋5)	1938	木わり	2 (10) : 63-64
『詩の本 (工程)』				
中村一郎 (村岡校)	平野吉雄 (尋5)	1938	よなべ	4 (4) : 5

(4) 小括

福井県では、7名の教師が対象雑誌において論考等を発表している。岡島繁や伊藤幸などの師範学校附属小学校に所属する教師が理論的論考を発表している。その一方で、刀禰勇治が一貫して詩歌を中心とした発表をおこないつつ、継続的に文集寄贈をおこなっている。文集寄贈を継続的におこなっている教師は少なく、そのため、誌面において子どもの作品を紹介されているのは、刀禰勇治ほか2名のみである。

第5節 おわりに

本調査報告では、1930年代の北陸三県における生活綴方の状況を整理し、生活綴方に関心を寄せていたであろう教師を同定した。まず、富山県の飯原丈頃（富山女師附小）、社浦与三郎（富山女師附小）、石川県の米田政策（石川師範附小）、福井県の岡島繫（鯖江女師附小）、らが対象雑誌において理論的論考を発表していた。いずれも師範学校附属小学校の教師であった。一方で、富山県の館川数夫（大久保校）、田中のぶ子（愛宕校）、寺島久雄（山室校）、石川県の柴木三郎（波佐谷校）、寺西正雄（川尻校）、福井県の刀禰勇治（敦賀校）、らが対象雑誌において継続的に文集寄贈をおこなっていた。そして、対象雑誌において名前が確認できる教師のなかには、のちに児童文学作家、詩人、郷土史家として活躍する人物も存在していた。例えば、富山県の岩崎直義（福光校）、多胡義喜（一）、館川数夫（大久保校）、石川県の木谷與作（小将校）、中本恕堂（美川校）、吉田政男（芳齋校）、福井県の刀禰勇治（敦賀校）らである。こうした教師の特徴は、①師範学校附属小学校の教師が理論的論考を発表する中心であったこと、②尋常／尋常高等小学校の教師が文集活動の中心であったこと、③後に地域において児童文学作家等で活躍する教師が存在したこと、の3点に現れている。すなわち、この3点が北陸三県の教師に共通する。

今後の課題として、本調査報告で同定した教師の教育論および教育実践の検討をとおして、1930年代の北陸三県における生活綴方の実相の解明をおこなう必要がある。そのうえで、なぜ、1930年代の北陸三県における生活綴方が看過されてきたのか、を問うていく必要がある。なお、本調査報告には2つの限界がある。1つは対象誌を復刻版に依ったことで、復刻版に未採録の号を調査できていないことである。いま1つは、全ての教師の筆名あるいは所在地等の同定に至っていないことである。この点も今後の課題としたい。

註

- (1) 峰地光重・今井誉次郎（1957）『作文教育』東洋館、107頁。
- (2) 日本作文の会編（1993）『学級文集の研究（第6巻 戦前／中部）』大空社。
- (3) 日本作文の会編（1984）『日本の子どもの詩（富山）』岩崎書店。
- (4) 日本作文の会編（1983）『日本の子どもの詩（石川）』岩崎書店。
- (5) 日本作文の会編（1982）『日本の子どもの詩（福井）』岩崎書店。
- (6) 滑川道夫（1983）『日本作文綴方教育史3（昭和篇I）』国土社、481-497頁。
- (7) 中内敏夫（1975）『綴方生活』民間教育史料研究会・大田堯・中内敏夫編『民間教育史研究事典』評論社、257 - 258頁。
- (8) 横須賀薫（1975）『教育・国語教育』民間教育史料研究会・大田堯・中内敏夫編『民間教育史研究事典』評論社、232頁。
- (9) 横須賀薫（1975）『実践国語教育』民間教育史料研究会・大田堯・中内敏夫編『民間教育史研究事典』評論社、245頁。
- (10) 野原由利子（1975）『工程』民間教育史料研究会・大田堯・中内敏夫編『民間教育史研究事典』評論社、242 - 243頁。
- (11) 野原由利子（1975）『綴方学校』民間教育史料研究会・大田堯・中内敏夫編『民間教育史研究事典』評論社、255 - 256頁。
- (12) 復刻版に採録されている特別号——例えば『月刊文章（全日本子供の文章）』——等も調査対象とした。また、『工程』に収録されている『佳い詩 佳い文』も調査対象としている。『佳い詩 佳い文』のうち、『工程』とは異なる頁数が振られている場合がある。その場合は、『佳い詩 佳い文』の頁数を示し、頁数の後に「※1」を付した。

【付記】

2024年1月1日に令和6年能登半島地震が発生しました。この地震により亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表します。また、ご遺族と被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

英文抄録

Seikatsu-Tsuzurikata in the Hokuriku Region's Three Prefectures (Toyama, Ishikawa, and Fukui) during the 1930s: A Descriptive Study

Yoshiro MATSUMOTO¹

Seikatsu-tsuzurikata, a distinctive educational method that originated in Japan, experienced its heyday in the 1930s. It is an essential research topic for unraveling the history of regional education because this method is characterized by (1) the portrayal of regional life in written works and (2) its unique evolution deeply rooted in local communities. Nevertheless, the research on seikatsu-tsuzurikata in the three prefectures of the Hokuriku region, Toyama, Ishikawa, and Fukui, during the 1930s has been progressing at a sluggish pace. First, it is imperative to identify the educators who may have displayed an interest in seikatsu-tsuzurikata within the three prefectures. We compiled a list of the educators who appeared in magazines related to seikatsu-tsuzurikata. Our investigation revealed that educators such as Jogoro Iihara and Yosaburo Shaura from Toyama Prefecture, Yoneda Seisaku from Ishikawa Prefecture, and Shigeru Okajima from Fukui Prefecture contributed theoretical articles to these magazines. Furthermore, educators such as Kazuo Tachikawa, Nobuko Tanaka, and Hisao Terashima from Toyama Prefecture, Saburo Shibaki and Masao Teranishi from Ishikawa Prefecture, and Yuji Tone from Fukui Prefecture consistently contributed collections of compositions.

Key words: Seikatsu-Tsuzurikata, 1930s, Three Hokuriku Prefectures,
Toyama Prefecture, Ishikawa Prefecture, Fukui Prefecture

Received 14 December 2023, Accepted 15 February 2024.

1. General Education Division, Kindai University, Wakayama 649-6493, Japan